

1. はじめに（練習・試合の再開についての諸注意）

2020年6月28日
多摩区少年野球連盟
会長 蕨迫 多美夫

特定警戒都道府県以外の都道府県においての自粛解除に伴い、神奈川県ならびに川崎市の方針に従うことを前提に、感染予防対策に配慮しながら小規模活動から再開してまいります。

活動再開によって感染拡大させないことは勿論のこと、無症状であっても他人に感染させることがあることを、日々の活動や試合に関わる全ての人が認識しておいてください。また、活動再開によって医療資源や医療従事者への負担等の問題があってはならないことを意識して練習や試合を計画してください。

なお、練習・試合の判断に迷われた際は、事務局へのご相談をお願いします。本ガイドラインは、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。今後の知見集積及び各地域の感染状況を踏まえて、見直すことがあります。

（このガイドラインは6月4日付全日本軟式野球連盟のガイドラインを基に多摩区少年野球連盟向けに編集してあります。）

2. 活動人数と感染予防対策 基本的な考え等について

【活動人数】

活動人数の上限については、政府の基本的対処方針に従い各都道府県知事において段階的に緩和することとされているため、逐次確認をお願いします。

現段階では、以下の表を目安としてください。（6月19日から）

- ・屋外ではともに1000人以下
- ・屋外は人との距離はできるだけ2m確保

【感染予防対策 基本的な考え方】

- ① 毎日体調チェックを行い、体調がよくない場合、家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合は参加を見合わせる
- ② ソーシャル(フィジカル)ディスタンス確保と3つの密【密閉・密集・密接】を回避すること
- ③ 新しい生活様式にのっとり、感染予防の意識を持ってください。

【熱中症対策について】

日々の練習・試合開催時共通の注意事項の感染症対策と共に熱中症対策も十分、留意してください。

夏場のマスク着用での生活は多くの人が体験したことのない状況であると思われるので、選手や指導者のみならず、役員や観戦者等の全ての人において熱中症への一層の警戒が必要です。

3. 感染予防対策 1 / 4

(1)練習・試合前に行うこと

1. 発熱、咳、倦怠感などの風邪症状および味覚嗅覚を感じない者の参加を認めない。
 - ・体調がよくない場合、又は以下の症状が少しでも疑われる場合は参加しないこと
(例：発熱、咳、咽頭痛、息苦しさ、倦怠感、嗅覚や味覚の異常等の症状)
2. 14日以内に感染者との接触や濃厚接触者と特定された者も参加を認めない。
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合は参加しないこと
3. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は参加を認めない。
4. 参加者(選手、監督・コーチ、保護者・家族、役員、審判員)は平熱を把握し、当日の検温を実施し会場に来ること。

3. 感染予防対策 2 / 4

チームで準備するもの
・手洗い用石鹸
・アルコール消毒液

(2) 球場・練習グラウンドに入場にあたって

1. 選手、チーム関係者、役員、審判員は球場に入る際、必ずマスクを着用すること。
 - ・移動時や着替え時等のスポーツ活動以外の際には、できるだけマスクを着用
 - ・マスクを外して活動する場合は、十分に周囲の人との距離を空ける。
 - ・マスクを着用して活動の場合は運動強度を落とす
2. 試合時の攻守交替決定時や大会運営側ならびに審判員からの諸注意をチームに伝える場合は、各々マスクを着用して行うこと。
3. こまめな石鹸による手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
 - ・特にトイレ利用後の手洗いについて十分注意してください。
4. マスク未着用時の咳エチケットの励行。
5. 感染者が発生した場合には、大会(イベント)を即中止とする。
6. 大会(イベント)参加者に感染が判明した場合には、参加者名簿を関係機関に公表する場合があることをご了承ください。
7. 試合に先だって、参加者全員(選手・監督コーチ・保護者・チーム観戦者)の**健康チェックシート**を記入し、本部(審判部)に提出すること。
 - ・**健康チェックシート**は試合終了後、本部から返却しますので取りにきてください。
 - ・返却後チームで1か月間保管すること。
 - ・提出しないチームは試合はできません。
 - ・大会中、感染者が出た場合、該当日の健康チェックシートを再提出することをご了解ください。
8. 試合後は速やかに球場から退場をお願いします。

3. 感染予防対策 3/4

(3) 球場・練習グラウンド内において

1. グラウンドにおける唾、痰を吐く行為を厳禁とする。
2. 人との距離を2m程取って下さい。ベンチ内でも可能な限り一定間隔を保つよう努力すること。
3. 応援者については、ベンチから2 m以上離れて、各々が「密」にならないように、一定の距離を保って観戦するようにチームごとで応援者に注意喚起を行うこと。
4. 練習および試合において、全選手が密集・密接する円陣や声出し、整列などは控える。
 - ・プレー中に必要以上に大きな声で会話や応援等は避けること
5. 競技中の選手のマスク着用については、不要とする。
 - ・ベンチ内に居る時には、全員(スタッフ含む)がマスクを着用することを推奨する。
 - ・ただし、熱中症予防に配慮すること。
6. 肌が触れ合うハイタッチなどは行わず、各々コミュニケーション方法を模索すること。
7. タオル、ペットボトル、コップ等の共有は避ける。
 - ・ベンチ内での共用のバケツによるタオルを洗わないこと
 - ・審判への給水は本部(審判部)で行うので準備不要です
 - ・チーム付審判は持参すること
8. チーム共用道具については、必要に応じて消毒すること (バット、ヘルメット等)
9. ベンチの消毒については第1試合の場合、試合の前後、第2試合以降は試合後にベンチの消毒を実施してください
10. ゴミは各自持ち帰ること。
11. 飲食(昼食)については球場で取ることを避けてください。難しい場合は対面を避け距離を取ってください。
12. チーム内および大会において、感染者が発生した場合は、チームの2週間の活動停止ならびに大会の即中止とする。

審判部で準備するもの
・手洗い用石鹸
・アルコール消毒液
・審判用飲料(各自で)

3. 感染予防対策 4 / 4

(4) 運営側の対応

1. 健康チェックシート(別紙参考)などを作成し、大会(イベント)当日に提出すること。
参加チームだけではなく本部員や審判員も健康チェックシートなどの実施を行うこと。
2. 練習場所および試合会場には、消毒液などを設置すること。
3. 大会開催の際は、試合間のインターバルを通常より長く設定し、選手ならびに関係者の密集のリスクを回避する工夫をすること。
4. 選手やチームを集めるなど、密集することがないように配慮すること。
 - ・ 試合前の整列は、審判員は本塁付近距離を取りならび、選手はベンチ前に整列する
 - ・ 試合前に用具点検を行う審判員は、手指の消毒を施してから行う
5. 試合中の主審ならびに塁審のマスク着用については、不要とする。
 - ・本部席に居る時には、全員がマスクを着用すること
 - ・ただし、熱中症予防に配慮すること。
6. タオル、ペットボトル、コップ等の共有は避ける。(スタッフも同様に個人で準備する)
 - ・試合中の審判の給水は取りやめますので、公認審判もチーム付審判も各自で準備してください。
7. 万が一、感染者が発生した場合には、川少連に速やかに報告すること。
8. チーム内および大会において、感染者が発生した場合は、チームの2週間の活動停止ならびに大会の即中止を判断し、関係者に連絡すること。
9. 万が一、感染者が発生したとしても、その者を誹謗中傷したり、非難したりすることが無いように配慮すること。
10. 観客(応援者)が入る場合は、密集・密接にならないように配慮すること。大声での応援なども控えるように協力をお願いすること。
11. 各地域の事情を踏まえ、本ガイドライン以外に必要なことは各チームで実施すること。
なお、運営側でも、入口などに貼り紙を行ったり、放送による呼びかけを実施したりすること。

改訂履歴

版	発行日	改訂履歴
第1版	2020.6.28	初版
第2版	2020.7.21	第二版 P.3下線部 平熱の把握。P.6 下線部 試合前の整列。

以上